

2021年度 自己点検・自己評価

I 教育理念・目標

評価項目	評価
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特徴が明確になっているか)	④ 3 2 1
2. 学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1

II 学校運営

評価項目	評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	④ 3 2 1
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

III 教育活動

評価項目	評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1

7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	④ 3 2 1
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	④ 3 2 1

IV 学修成果

評価項目	評価
1. 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
2. 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
3. 退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	④ 3 2 1
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

V 学生支援

評価項目	評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1

6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4 ③ 2 1
7. 保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
8. 卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④ 3 2 1

VI 教育環境

評価項目	評価
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
3. 防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
3. 学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

VIII 財務

評価項目	評価
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

IX 法令等の遵守

評価項目	評価
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1

4. 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	④ 3 2 1

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

評価指標 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

【2021年度に定めた重点目標評価】

1. 看護師に求められる看護実践能力を育成するための教育力の向上

- 1) 学生のコミュニケーション能力向上を目指した関わり
- 2) 学生の主体的行動を推進する教育的関わり
- 3) 看護技術力を促進するための教育的関わり
- 4) 授業内容・方法の充実

《評価》

- ・教員は学生との関わりの中で、学生の思いをくみ取ることのできるようなコミュニケーションを意識して行動していた。
- ・当校は母体病院の協力もあり臨地実習を再開することができ、担当患者や実習指導者等とのコミュニケーションとる機会を与えられた。
- ・各領域でシミュレーション学習やグループワークを取り入れ、感染予防対策を行いながらグループで学ぶ機会をつくった。3年生では臨地実習において全員合格しており、自分の思いを言語化し相手に伝えるなどの能力向上はできてきたのではないかと考える。
- ・教科外活動にて、2年生は「社会人基礎力講座」、3年生は「ストレス耐性」「ロジカルシンキング」を受講し、社会人としての姿勢や態度等について学ぶ機会を設けた。また、3年生は卒業前にキャリア形成についても学ぶ機会を設けた。1年生は当初予定していた「コミュニケーション能力UP講座」を次年度受講できるように計画している。教科外活動を体系化していくことが課題である。
- ・3年次の「看護研究演習」の発表に2年生も参加した。3年生は実習での経験を言語化し、論理的に相手に伝えるという機会となり、2年生は看護研究の発表を聴くことで、感じたことを3年生に伝えることができた。1年生は、臨地実習、「学生フォーラム」の視聴、オンライン授業を通して少しずつコミュニケーション能力を育てることができた。
- ・基礎看護技術教育においてチューター制を継続することにより、技術習得だけでなく担当教員やメンバーとのコミュニケーションの機会を作ることができた。
- ・COVID-19の影響による自治会活動の内容の変更、中止に伴い、担当教員が支援しながら活動を進めることができた。
- ・1年生に対して2科目コラボ授業を行い、対象にあった看護を考える機会につながった。今後は計画的に明文化し、実施していく。
- ・演習や学内実習で事例を工夫して看護課程や看護技術をシミュレーションし、振り返る機会を設けた。動画やDVD、書籍等を使って、より臨床看護技術を学べるように工夫できた。
- ・実習指導要綱の作成はできなかったが、感染拡大防止のため学内実習となり各領域で学内実習指導計画を作成した。
- ・COVID-19の影響によるカリキュラムの進度変更や教員の欠員により授業案の作成には至らなかったが、研究授業にて授業の構成や進め方、問いの立て方、教育内容について振り返ることで、学生の興味・関心を促すための教育方法を教員間で考える機会となった。また、他の教員の授業に参加して、新たな気づきを得ることができた。
- ・第111回看護師国家試験の合格率は100%であった。3年生については、夏季休業、冬季休業に学生のニーズに応じた対応を行った。外部講師と教員による補習講義は卒業時カリキュラム評価において平均3.7と高い評価であった。

2. 高い倫理観と豊かな人間性の醸成

- 1) 倫理的視点を重視した教育的関わり
- 2) 学生の協働する力の強化
- 3) 学生の創造力を伸ばす

《評価》

- ・学生は講義で知識を得て、臨地実習や普段の生活のなかで個人情報保護を意識し行動していた。しかし、一部の学生においては、臨地実習やSNS上での個人情報の管理について指導が必要なケースがあり、学生個々に合わせた対応、指導をした。またその内容によって、各学年で共有し学生の意識を高めることができるよう関わった。
- ・臨地実習が学内実習に変更になりグループで学ぶ機会が増加した。グループ学習を通して、自分以外の意見を聞くことの重要性を感じることができた。また今年度、学生フォーラム当番校を経験したことで、役割を担うことで仲間と協働し作り上げることができたので、協働する力の強化につながったと考える。また1年生は基礎看護技術教育においてチューター制を取り入れ、指導教員との日程調整やグループ内での協働学習を自主的に進めることができた。
- ・学生フォーラムの当番校となり、2年生を中心に実行委員会を立ち上げ、指導の下ではあったが、コロナ禍での開催方法や内容について考え企画することができた。
- ・コロナ禍での自治会活動であったため、文化祭や球技大会、新入生歓迎会などは中止を余儀なくされた。看護の日については、病院・学校敷地内の清掃活動を自治会役員の学生が企画し、実施することができた。
- ・2年次の特別講演の社会人基礎力講座のひとつとして創造力について講義していただいた。
- ・卒業を祝う会では、例年通りのパーティーではなく、感謝の気持ちをどのように伝えるかを学生が考え、取り組むことができた。

3. 健全な経営と業務の効率化

- 1) 入学試験応募者数確保
- 2) 勤務時間の適正化
- 3) NHO 就職率70%以上、県内就職率90%以上
- 4) 学生による卒業時カリキュラム評価全体平均3.5以上

《評価》

- ・今年度の受験者数は前年度より減少した。学校説明会等の募集活動を工夫して継続していく。
- ・会議時間は朝のミーティングで調整し、1時間程度で終了することができていた。
- ・NHO 就職率80.9%、県内就職率86%であった。県内就職率は目標をやや下回ったが、今後も学生の個性に合わせた就職支援を行っていく。カリキュラム改正による実習施設の新たな確保においては、できる限り県内の施設を選定し、就職率につなげられるようにする。
- ・助産師学校・助産師課程への進学者希望者は、各自の目指す進学先への進路指導を行い全員合格することができた。
- ・学生による卒業時カリキュラム評価の全体平均は3.4（昨年度3.5）であり、課外活動への満足度以外は全て3以上であった。感染対策により今年度も就職支援や国家試験対策など学生への学習支援などを急遽変更せざるを得ない状況であった。そのような状況の中で、SNSを利用した情報伝達やグループフォームを利用した健康確認やリフレクションによって、学習内容の保証、学生の思いに寄り添えるような関わりを意識した。
- ・国家試験対策においてもできるだけ例年通りとし、外部講師と教員による補講の実施や、学習場所の確保など学生個々の成績や心理状態に合わせた対応を行い、満足度について高い評価であった。
- ・課外活動については、自治会活動が開催できなかったことへの意見が多く、評価は2.5と最低値であった。次年度もコロナ禍での活動が予想されるため、係の学生とコミュニケーションを取りながら、内容や方法を工夫していく。